

いわき農林事務所ニュース

2007年 12月号

活動状況

- ・ [農業高校等連携促進事業で視察研修実施](#)
- ・ [「ごはんの日応援店」を実施](#)
- ・ [農業・食品産業連携推進事業実施](#)
- ・ [「緑の応援隊」第1回を開催](#)
- ・ [「いわきの森・農・海の幸体験学習ツアー」を開催](#)
- ・ [高病原性鳥インフルエンザ防疫対策研修会実施](#)

トピックス

- ・ [うつくしま育樹祭開催](#)
- ・ [集落営農の推進に向けて](#)



活動状況

農業高校等連携促進事業で視察研修実施しました

いわき農林事務所では、磐城農業高等学校と連携し、学校教育への支援や農業のPR等を通じて、次代を担う若い農業担い手の確保育成を図ることを目的として、平成17年度から5カ年間、農業高校等連携促進事業に取り組んでいます。

本年度は、去る11月1日(木)に園芸科1年生を対象にいわき地域の農業に対する理解を深めることを目的に、いわき市中央卸売市場、いわき市フラワーセンター、(農)大野水耕生産組合の3施設において視察研修を実施しました。

生徒達はいわき市中央卸売市場では取扱品目の多さと量に驚き、特に花き部においては実際に花きの競りを見学することができ、貴重な経験となった様子でした。

次に、いわき市フラワーセンターでは施設内の説明を聞いた後に施設内を自由に散策し、思い思いに季節の花を楽しんでいたようでした。

最後に視察した(農)大野水耕生産組合では他地域に先がけて導入された施設で栽培されているトマトやイチゴを熱心に見学し、活発な質疑応答がなされました。

今回の視察研修の成果が今後の学校生活に有意義なものとなることが期待されます。



視察研修の様子

「ごはんの日応援店」を実施しました

県では、毎月8日を「ごはんの日」と定め、「もう一杯！元気な手がでるふくしまごはん」をキャッチフレーズに、ごはんを中心とした日本型食生活の推進や、米の消費拡大の普及啓発を行っています。

おいしい新米が出回るこの時期にあわせ、「ごはんの日」である、11月8日（木）及び12月8日（土）に、いわき市内の飲食店11店舗において、お客様がごはんの良さを実感できるようなサービス（一部メニューの割引、大盛り・おかわり無料など）を提供する「『ごはんの日』応援店」を実施しました。

12月8日（土）には、「いわき・ラ・ラ・ミュウ」において、ふくしまのお米をPRするキャンペーンキャラクターである「2007 うつくしまライシーホワイト」が、ごはんの日やごはんの日応援店のPR活動を実施しました。当日は、ごはんの日応援店を利用いただいた方先着100名に県産米の「ひとめぼれ」のプレゼントも実施し、多数のお客様に御利用いただきました。



うつくしまライシーホワイトも応援

平成17年度から、地元農産物の消費拡大と生産振興、地域の活性化を目的として、いわき市内で生産された4品目を原料とした5つの加工品の試作検討を行ってきました。事業最終年度となる今年度は、地元産なしを原材料とした加工品「梨のコンポート(ワイン煮)」に焦点を絞り、地域のブランド化を目指して、様々な取り組みを行っているところです。

去る11月13日（火）には、地方協議会を開催し、委員など14名の出席のもと、梨の栽培実証の経過報告、加工試作品の評価、今後の販売に向けた検討などの意見交換を行いました。

意見交換では食品製造業者より、加工に適する梨の条件についてアドバイスをいただき、生産者側であるJAいわき市梨部会からは、加工へ向けられる梨（品種は豊水）の生産状況や加工に仕向けられる数量、さらには、晩生品種（涼豊）とのセット販売についての話題が出されました。また、先進的な取り組みをしている実需者からは、利用方法や販売についての事例が報告されました。

今後、市内で開催される地産地消イベント等において、消費者に「梨のコンポート」を試食していただき、評価していただくこととしております。



協議会の様子

11月17日（土）、いわき農林事務所といわき地方振興局の主催で「緑の応援隊」を開催しました。

「緑の応援隊」は、いわき地方の木材、特に林内に残された未利用の間伐材を、環境にやさしい木質ペレットなどの木質バイオマスとして利用促進するため、道路脇まで人力で搬出するボランティア活動です。今年度はそれに加え、木質バイオマス等についての理解を深めるための研修会を併せて実施しました。

この日は、一般参加者や指導者、スタッフなど総勢32名で活動を行いました。



作業の様子

搬出作業は午前中のみと短い時間でしたが、緩傾斜地で現場条件が良く、参加者の皆さんも頑張ってくださいましたことから、多くの間伐材が集めることが出来ました。

昼食は、入遠野婦人会の協力により、地元の野菜をふんだんに使ったおいしい豚汁を提供し、参加者の皆さんにも大変好評でした。

午後の研修会は、県内唯一の木質ペレット製造施設である遠野興産(株)岩石工場において製造施設の見学を行いました。木質ペレットの製造工程や様々な木質バイオマスの利活用について説明を受けました。



作業を終えて

今回は、今年2回の活動のうちの第1回として開催しましたが、第2回は12月8日(土)に実施しました。その詳細については、次号で報告したいと思います。

11月25日(日)、磐城流域林業活性化センターといわき農林事務所主催による「いわきの森・農・海の幸体験学習ツアー」をいわき市中央台において開催しました。

参加したのは、市内の親子など45名と講師、磐城流域林業活性化センター、県水産事務所及び農林事務所職員の計56名です。

このツアーは、料理や木工工作などの体験を通して、地元の食材や木材に関する関心を高めるとともに、森林・林業・木材について理解を深めることを目的に、いわき市漁業協同組合女性部久之浜支部のメンバーといわき市暮らしの伝承郷学芸員を講師に迎え実施しました。



みんなで協力して木串づくり

まず、中央台公民館でいわきの木材、米、魚を使った押し寿司教室を行いました。今回の押し寿司には、地元の小鯛やシイタケ、県オリジナル品種の米「ふくみらい」を使うなど、押し寿司の木枠から食材まですべて地元産にこだわりました。はじめに、農林事務所職員から森林や木材についての説明を受け、地元産のスギを材料に押し寿司の木枠づくりを行いました。その後、いわき市漁業協同組合女性部久之浜支部の指導を受け、押し寿司づくりに挑戦しました。また、サンマのさばき方などを習いながら、サンマのつみれ汁も作り、参加者全員で出来上がった料理を試食しました。



押し寿司づくりに挑戦

参加者は、「押し寿司とサンマのつみれ汁のおいしさ」と、「自分たちで作った木枠を使って押し寿司を完成させたこと」に大変満足した様子でした。

午後は、いわき市暮らしの伝承郷に移動し、学芸員の案内で古民家の見学を行いました。参加者は、江戸時代後期から明治時代初期に建築された古民家の造りや特徴、伝承郷に収蔵されている生活道具類について説明を受けながら、普段触れることの少ない体験を楽しんでいました。

11月26日(月)、県いわき合同庁舎で高病原性鳥インフルエンザ防疫対策研修会を開催しました。

この研修会は昨年度に引き続き2回目の開催であり、県・いわき市の関係職員45名が参加しました。

研修会では、万が一発生した場合、いわき地方対策本部における初動体制の確認等マニュアルによる机上演習の他、防疫作業に従事するために必要な防護服の着脱や車両消毒について、実体験をしてもらいました。

参加者は、県いわき家畜保健衛生所の獣医師の実務指導を受けながら、防疫対策に対する理解を深めることができました。



防護服を着ての作業でした

トピックス

うつくしま育樹祭が開催されました

11月10日(土)、森林に親しみ、守り育てる心を共有しながら、県民参加による森林づくりを一層進めることを目的に、第5回うつくしま育樹祭が、いわき市フラワーセンター周辺で開催されました。

この育樹祭は、うつくしま育樹祭実行委員会の主催で行われ、県内から、一般公募の参加者や森林・林業関係者ら約200人が参加しました。

開会式のあと、参加者らは希望した活動により10班に分かれ、間伐作業、自然観察会及び木工クラフト教室のそれぞれの体験活動に取り組みました。

林業公社造林地では、林業技士会及び福島県グリーンフォレスターによる指導のもと、スギの間伐作業を行いました。また、自然観察会や木工クラフト教室は、いわきの森に親しむ会の指導を受け実施しました。当日はあいにくの雨で、活動が午前中のみと予定が大幅に変更されましたが、参加者らはそれぞれの活動を意欲的に行い、森林の働きや林業の重要性などについて理解を深めた様子でした。



スギの間伐作業



自然観察会

集落営農の推進に向けて
～平成19年度 集落営農塾が開講～

集落営農や法人化を推進するリーダーの発掘や育成等を目的として、平成19年度集落営農塾の開講式が11月20日(火)、JAいわき市で行われました。

塾の主催は、いわき市地域担い手育成総合支援協議会で来年2月まで4回計画されております。

開講式後、第1回目の講座が開催され、農山村地域経済研究所長で前山形大学教授の楠本雅弘氏による「地域の多様な条件を活かす集落営農 - 集落営農に魂を」と題した講演と意見交換が行われました。

楠本先生からは、農用地利用改善団体を基礎とした、地域にあった集落営農の仕組みづくりについて、先進的な取り組み事例を含めた具体的な説明があり、参加者は集落営農の役割や基本的な考え方、集落営農による地域農業振興の可能性について理解を深めたようでした。

講演後の意見交換では、中山間地の現状や課題等について、先生からの助言を得ながら熱心に討議が行われました。今後、地域のリーダーとなる受講者の方々を核として、それぞれの地域に合った元気の出る集落営農の仕組みづくりが広がるものと期待されます。



講演の様子

◀ もどる

すすむ ▶

[[Top](#) [福島県トップページ](#) [いわき農林トップページ](#)]